

編集後記

英文学者の外山滋比古氏（当学会名誉会員）が、このほど新著『日本の英語、英文学』（研究社）を上梓された。出版業界紙『新文化』11月9日号に氏のインタビュー記事が載った。外山氏の「日本人の英語が、ネイティブと同じである必要はまったくない。それより大事なのは、日本人として何を述べるか、主張するのか、ということ」とのメッセージから、異文化の学びや研究において、こちらから発信することの大切さを改めて考えさせられた。一方通行で受け入れるだけではダメ。相互の理解を深めお互いに発信し合うことが大事と考えれば、その先には文化の融合があるのではないか。

この第 25 号でも、文化の受容や発信、文化理解の深化に関わるご寄稿をたくさんいただいた。宗片会長の新作能や、郡山氏の翻訳の試み、松井氏の英語俳句が、文化の発信に関わるのと言うまでもない。遠藤氏の英語能研究、宗片会長のシェイクスピア能論、坂田氏のヘミングウェイ論、木佐貫氏の蕪村論も、文化事象の理解を深めるのに役立つものだ。木佐貫論文は、論拠となる調査を、文献調査の範疇を超えて、実際に現地へ赴き、足で歩き、目で見て、論考を進めており、方法論としても一石を投じているのではないか。

平成 29（2017）年も、年末が近づいてきた。今年一年の学会活動を振り返ると、編集子には、秋季大会を二年ぶりに無事に関西で開催できたことが嬉しい。斎藤衛先生のご講演も実現できた。秋季大会の開催にあたっては、とりわけ大阪在住の木佐貫副会長にご尽力いただいた。御礼申し上げたい。

来年は、正月 27 日（土）に、例会として熱海・起雲閣で新作能『貫一・お宮』謡い公演の集まりを、また 4 月 22 日（日）には東京・神田の篠原保育医療情報専門学校にて春季大会開催を、それぞれ予定している。大会・例会の開催と学会誌の発行は、当学会を支える両輪である。皆様からのご投稿、ご参加、そしてお預かりする年会費に、学会活動は支えられている。

今後ともよろしく願います。（編集子）

追伸、会則改定とホームページの移転について追記しました。

印刷版の発行が遅くなったことをお詫び申し上げます。

『融合文化研究』第 25 号

<https://ishcc.stars.ne.jp/>

発行所 〒192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 国際融合文化学会（ISHCC）事務局

発行人 宗片 邦義

発行日 2017（平成 29）年 12 月 14 日 ホームページ公開、

2018（平成 30）年 7 月 10 日 一部更新

2018（平成 30）年 7 月 31 日 印刷版発行 印刷所 合同印刷株式会社

Published by: International Society for Harmonization of Cultures & Civilizations (ISHCC)

Office: Room 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

E-mail: kuniyoshi@munagumi.com Tel: 0557-82-1411 (Munakata)